



五五 十 二八十 一九 十

(ごご じゅう にはち じゅう いちく じゅう)

理事 前田 正寿

教育相談とはいっていい何なのでしょうか。久々にこの命題を考える機会がありました。教育相談に携わって約40年弱。分からぬことだらけです。私の師匠（教育相談の師匠ではありません）は「分らなくなつたということは、分かつてきただよ」と教えていただいたのを思い出します。私は、教育の場に身を置いたときから教育相談を始めました。きっかけは私の父でした。青森県の教育相談の立ち上げに関与した父は、私に「これから教育は教育相談が大きな力となる。お前みたいな短気な者は教育相談を学ぶべきだ」と言われ、研修を積むことになりました。まさしくこのきっかけはたくさんの先輩、同志を得て、いろいろなことを教えていただきました。現在再任用となり教育界はものすごいスピードで展開されていると感じました。ICT教育は最たるものです。既にICT無くして教育は成り立たないのかもしれません。先日公開授業でICTを活用した授業を参観して、ハッとした。授業はほとんどメールのやり取りでした。発表ができない子にとっては、ICTはとても活用度があるということは分かります。しかしこれで良いのでしょうか。私たちは、人ととの接することで関係が生じます。これがきっかけでさらに関係が深まったり、新たな出会いもでてきます。相手と話をして、好感をもつ、嫌いになる。声のトーンから相手の状況を察したり、顔の表情や身体の行動から、雰囲気を感じたりと読み取ることができます。人は大昔からこのようなことが行われてきました。時代とともに変えていかなければいけなことです。変えてはいけないこと。まさしく「不易と流行」です。教育相談の技法も10年前と現在では違います。時代は進化しているのですから、当然人間も進化しています。だから学ばなければいけないです。学ぶ場はこの学会が一番の近道です。同志もいるのが何よりです。本や画像はたくさんあり、学ぶことはできます。学びて倦まずであればさらに私たちは成長できると思います。と同時に人間としての接し方も学んでいかなければいけないと思うのです。「来即迎、去即送、対即和。 五五 十、二八 十、一九 十。長短一味。

事に臨んで心動かすことなかれ。」鬼一法眼の言葉です。相手が五の力をもっていれば自分も五の力を出し合わせて十にする。相手が二であれば八の力を、一の力であれば九の力を足して十にすることできたら心を動じず、物事をつきすすむのだという意味です。「自分の教育相談にもこんな力があればなあ」ふとこの言葉を思い出しました。